

令和元年6月1日現在

機関番号：32653

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370298

研究課題名(和文) ジョウゼフ・コンラッドの作品と「東洋の海」に関する研究

研究課題名(英文) The Life and Works of Joseph Conrad, focusing on his Eastern Seas

研究代表者

設楽 靖子 (Shidara, Yasuko)

東京女子医科大学・看護学部・講師

研究者番号：10311242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、英文作家ジョウゼフ・コンラッド(1857-1924)の生涯と作品について、ヨーロッパ辺境での生い立ち、イギリス商船員として世界各地での見聞、イギリス文壇での作家生活、という3つの側面を関連づけながら理解することを意図したもので、特に、先行研究が少ない東南アジア島嶼世界、すなわち「東洋の海」に焦点を当てた。まず、「文献調査」によって、一次資料へのアクセスが確認でき、新資料の発掘が可能となった。次に、「現地調査」によって、実体験と作品化の関係が確認できた。さらに、国内外の学会参加や開催や作品の邦訳総リストの完成を通して、特に「東洋の海」をめぐる研究のネットワークを作成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、コンラッドの「東洋の海」に焦点をあて、現地調査(ゆかりの地を特定し探索)と文献調査(一次資料の所在を確認し、原本を閲覧)を組み合わせる方法を取った。その研究成果の第一は、現地での追体験および関連する一次資料は、19世紀後半イギリスの海の帝国が形成されていく様をつぶさに伝えるものであり、この方法が今後のコンラッド研究に有効である実例をいくつか示したことである。さらに、本研究へのアプローチとして、ヴィクトリア朝の「医療」という新しい切り口を提示することができた。また、網羅的なコンラッド作品邦訳リストを完成させ、今後の海外との研究者交流および基礎データの発信に寄与するものとした。

研究成果の概要(英文)：This study project aimed at re-reading the life and works of Polish-born British writer Joseph Conrad (1857-1924), correlating his three aspects, that is, his early life in peripheral Europe, experiences as a British merchant mariner travelling across the world, and his settled life in the imperial metropolis, focusing on his "Eastern seas," which refers to late 19th-century maritime Southeast Asia.

As the result of this research project, first, through bibliographical and archival surveys new source materials have been excavated. Next, by visiting the spots of his experiences, examples of interrelationship between the real-life experiences and the literary works have become identified. Last, by attending the conferences in and out of the country and organizing a symposium, as well as by compiling and publishing a comprehensive list of Japanese translations of Conrad's works, a network of researchers to advance this research topic, especially in Asia, has been reinforced.

研究分野：英文学

キーワード：英文学 イギリス小説 東南アジア史 ポーランド史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

ジョウゼフ・コンラッド (1857-1924) は、ポーランド (現在のウクライナ西部) 出身にして、1870年代から20年近くイギリス商船員としてオーストラリア、東南アジア、アフリカなどの航路で乗務した後、イギリスに定住し、世界各地域における文化接触・相克を文学作品 (小説、中短篇、エッセイなど) に結実させたという特異な経歴を持つ作家である。当然ながら、コンラッド研究は、イギリス文学史において19世紀末~20世紀初頭、すなわちヴィクトリア朝~エドワード朝期の小説という研究分野において、イギリス・アメリカを中心に作家・作品研究が積み上げられてきた。特に1980年代後半からのポストコロニアル批評の展開とともに、「闇の奥」がその関連主要テキストとして集中して取り上げられた経緯もあり、アフリカの舞台とするコンラッド作品について、その歴史的・地政学的文脈に位置づけようとするアプローチが進んだ。しかし、それ以外の非ヨーロッパ地域、特にこの作家と縁の深い東南アジア島嶼世界を舞台とする作品については、当該地域固有の事情をふまえた上での研究は、未だ充分に進展してきたとは言えない。

本研究の担当者は、アジア研究の専門図書館に研究員として勤務し、19世紀東南アジア島嶼部をめぐる一次史料 (旅行記、新聞などの英語文献) を渉猟した経験と人脈があり、英文学の分野の研究者がアクセスしにくい情報に接した。この地域を「コンラッドにとっての東洋の海」と定義し、コンラッドが「東洋の海」をいかに把握していたか、それがどのように作品に描きこまれているか、「書かれた側」がコンラッド作品をどう読んできたか、そのことにどのような意味があるかを考察することを着想した。

## 2. 研究の目的

本研究は、ポーランド出身の英文作家ジョウゼフ・コンラッドの生涯と作品について、自ら船員として体験し、作品の舞台とした「東洋の海」(東南アジア島嶼部) に焦点を当て、19世紀後半~20世紀初頭の当該地域の歴史的・地政学的文脈の中で、実体験と作品化の特徴を探る。その際、英文学以外の研究分野での研究蓄積を積極的に活用しながら、コンラッドの作品と生涯について新たな解釈を提示する。そのために、

- (1) 当該地域における同時代資料を検索・閲覧し、関連の文献的系譜をたどることで、歴史的・地政学的文脈を示す基礎データを作成する。
- (2) コンラッドが見聞した地点で現地調査を行なうことで、自身の実体験および作品化の特徴・特異性と意義を実証する。
- (3) アジア地域を拠点とするコンラッド研究者のネットワーク作りを進め、今後の研究発展に寄与する。

## 3. 研究の方法

コンラッドにとっての「東洋の海」へのアプローチとして、(1) 文献調査、(2) 現地調査、(3) アジア地域の研究者とのネットワーク作成を3本の柱とし、具体的に以下の方法を計画・実施した。

- (1) 同時代資料の検索、所蔵場所を訪問調査・閲覧、および入手可能な資料の購入を行なった。
- (2) 現地調査として、シンガポールとインドネシアを中心に計画した。イギリスと北米とポーランドについては、学会参加の折を活用した。
- (3) 学会出席および学会開催を通して、研究者相互の関係づくりを進めた。その一環として、網羅的な「コンラッド作品邦訳リスト」を完成させることにし、海外の研究者・関係者との共有が可能ないように日英併記とした。

## 4. 研究成果

### (1) 文献調査

カナダ・バンクーバー (2015年) :

2015年に学会参加でバンクーバーへ行った折に、ブリティッシュ・コロンビア大学図書館 (特に The Chung Collection) 海洋博物館、市立史料館にて、資料閲覧を行なった。バンクーバーは、1887年に大陸横断鉄道の到達によってイギリスの「海の帝国」が完成した要の地点であり、コンラッドの「東洋の海」とのリンクを一次史料で確認できた。

シンガポール (2017年) :

コンラッドの東洋体験および作品化の鍵になる1880年代シンガポールに関する同時代英文資料を、国立図書館 (National Library)、国立公文書館 (National Archives)、東南アジア研究書図書館 (Institute of Southeast Asian Studies Library)、Botanical Gardens Museum で渉猟した。特に、シンガポール総合病院博物館 Singapore General Hospital Museum では、コンラッドの伝記・作品と直接関わる未公開の写真を発掘することができ、医療面からも1880年代シンガポールがイギリスの拠点都市として整備される最中であったことを確認できた。この調査で知り得た二次資料 (研究書) は、入手可能な限り、購入した。

米国ニューヨーク (2017年) :

2017年に学会参加でニューヨークへ行った折に、コネチカット州のイェール大学バイニ

キ稀観本図書館にて資料調査を行なった。コンラッド研究に関して世界最大の一次資料を所蔵し、手稿や書簡のオリジナルのみならず、散逸しやすい書類や写真の原本が閲覧可能である。コンラッドが「東洋の海」から持ち帰った「船の荷積み票」など、タイムカプセルを開くような掘り出し物であった。

ロンドン(2018年):

2018年に学会参加でロンドン近郊へ行った折、ロンドン大学図書館(Senate House)とポーランド文化協会に付置された Polish Library にて資料調査を行なった。前者には、コンラッドの東南アジア体験について先駆的研究を進めた研究者が収集した一次・二次資料が一括して寄贈されており、未刊行の原稿類を閲覧できた。後者では、出身国の視点からコンラッド像を紹介したもので、世界の諸言語に訳された作品群を一覧することができ、こちらで用意した日本語翻訳総リストを紹介することができた。

また、ナイチンゲール博物館も訪問し、コンラッドの同時代としてのナイチンゲールの生涯と業績を知ること、両者がヴィクトリア朝の文化・社会およびイギリス帝国の拡大という文脈において関連づけられる可能性が理解できた。

## (2) 現地調査

シンガポール(2017年):

コンラッドが1880年代にイギリス商船員として体験した「東洋の海」は、イギリス直轄植民地シンガポールがその要であったことから、本研究での「現地調査」はこの場所が中心となる。現在の港湾施設、病院 Singapore General Hospital、国立博物館(当時のラッフルズ博物館)、植物園(当時のラッフルズ植物園)など、コンラッドゆかりの地を巡ることで、当時のイギリスの「海の帝国」を追体験し、作品の細部との関連を確認することができた。

英国エセックス(2018年):

コンラッドが船員から作家に転身して最初に住んだ家があるエセックスの Stanford-le-Hope を探索した。テムズ河の河口に近いこの旧宅一帯を実際に訪れることで、この居住地が、代表作「闇の奥」や初期の東南アジア作品を執筆する原風景として、作品化に少なからず役割を持ったことを窺うことができた。

## (3) ネットワーク作り

学会の開催

2017年、所属大学(東京女子医科大学)を会場に、日本コンラッド協会主催の全国大会を行ない、シンポジウムを立案・実施した。

国際学会への参加

2014年、アメリカ・コンラッド協会主催 国際学会(カナダ・バンクバー)

2017年、同(ニューヨーク、フォードム大学)

2018年、英国コンラッド協会主催、国際学会(エセックス)

「コンラッド作品の邦訳リスト, 1904-2017」(日英併記)の作成と公開

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 8 件)

設楽靖子「学会報告: ジョウゼフ・コンラッド協会(英国)第45回大会 Writtle University College, 5-7 July 2018」『コンラッド研究』第10号、2019、151-154.

設楽靖子「学会報告: “Conradian Cross-currents,” New York City, 1-3 June 2017」『コンラッド研究』第9号、2018、23-26.

設楽靖子、井上真理編「コンラッド作品邦訳リスト, 1904-2017」『コンラッド研究』第9号、2018、39-48.

設楽靖子「新刊紹介: A. Francis, *Culture and Commerce in Conrad's Asian Fiction* (2015)」『コンラッド研究』第8号、2017、71-74.

Yasuko Shidara. “Conference Report: Joseph Conrad Society of Japan 2nd Annual Conference.” *Joseph Conrad Today: Publication of the Joseph Conrad Society of America*. Spring 2016, 1-2.

設楽靖子「コンラッドの短篇“The Secret Sharer”に隠された『帝国地図』」『武蔵大学総合文化研究所紀要』24, 2015, 113-125.

Yasuko Shidara. “Conrad and Lafcadio Hearn: Two Observant Wanderers Writing in Their Adopted Countries,” *Conradiana: A Journal of Joseph Conrad Studies* 46, 2014, 123-133.

設楽靖子「ジョウゼフ・コンラッドとヴィクトリア時代の海」『武蔵大学総合文化研究所紀要』23, 2014, 39-52.

[学会発表](計 2 件)

設楽靖子「コンラッド作品にみる病いと旅 東洋編」. 日本コンラッド協会第3回全国大会. 2017年(東京女子医科大学)

Yasuko Shidara. “Conrad and Lafcadio Hearn: Searching for Echoes between the Two

Wanderers/Observers.” 「アメリカ・コンラッド協会主催 Conrad: Conflict and Solidarities」 2014年（カナダ・バンクーバー）

〔その他〕

ホームページ等:

上記4- については、日本コンラッド協会のサイトにリンクを張る形で掲載予定。

<http://conrad-soc-japan.org/Conrad%20Studies%20No%209.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

無し

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名： 井上 真理

ローマ字氏名： Inoue Mari

研究協力者氏名： 奥田 洋子

ローマ字氏名： Okuda Yoko

研究協力者氏名： 川崎 明子

ローマ字氏名： Kawasaki Akiko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。